

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立多治見北高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和6年1月30日(火) 14:00~16:00
- 3 開催場所 岐阜県立多治見北高等学校会議室
- 4 参加者

会長	小林 雄一	愛知工業大学教授
副会長	水野 知久	東濃子ども相談センター所長
委員	長壁 和恵	会社員 元PTA役員
	加藤 恵子	消費生活協同組合理事 元PTA役員
	宮嶋 浩	バロー文化ホール館長
	則武 寿恵	PTA副会長
学校側	白石 秀史	校長
	山下 サツキ	事務部長
	西田 智子	教頭
	市川 学	教務主任
	加藤 大	生徒指導主事
	前川 泰信	進路指導主事

### 5 会議の概要(協議事項)

- (1) 校長挨拶
- (2) 授業見学
- (3) 今年度の反省
- (4) 意見交換及び協議

意見1：図書館講座など外部から講師を招くことがキャリア教育として活発に行われており、生徒にとってよい刺激となっている。

意見2：総合的な探究の時間の発表を見学したが、英語でプレゼンテーションをしたりパワーポイントを使いこなしたりして大学院生くらいの力があるようだ。

意見3：タブレット端末を活用していたが、大学に入るとタブレット端末では対応できず、パソコンでのブラインドタッチやエクセルの活用ができるようにすることが必要である。タブレット端末とパソコンの使い分け、オンライン授業と対面授業についてはどのように行われているのか。

⇒タブレット端末使用時も、文字やデータの入力などはキーボードを使って行っている。授業については、現在はすべて対面で行い、生徒の様子や理解度を確認しながら進めている。オンラインについては、生徒の利便性を高めるため、従来は体育館などで行っていた説明会や集会を、各教室でオンラインで行っている。

- 意見4：校内模擬国連が生徒の発案で行われていると聞いた。進学校で受験勉強も大切だが、それだけではないところにも多くのエネルギーが使われていて、健康的ですばらしい。
- 意見5：総合的な探究の時間では生徒が自由なテーマで取り組んでおり、いろんな分野の発表が聞けて世界が広がるのもよかった。生徒の「おもしろい」と感じるものを応援している雰囲気が伝わってきた。今後も自分で考えて自分で向かっていくことを大事にしてほしい。
- 意見6：資料に、生徒に対して授業評価を行うとあるが、これは教職員と生徒のどちらが評価をするのか。  
⇒生徒が行う。パワーポイントをもう少しゆっくり操作してほしいなど建設的な意見が寄せられる。他校でも同じように行われている。
- 意見7：生徒の自転車事故について、今は車対自転車でも自転車も悪いという時代になった。何かあったときに、どう対応すればよいのかを知っておくことも大切だ。
- 意見8：観点別評価への移行が課題であるという話が前回も出ていた。評価の方法が変わることで授業も変わるのか。  
⇒本年度は、旧教育課程の3年生と新教育課程の1、2年生で評価方法が異なるため、切り替えという点で労力を要したが、来年度は全学年が同じ評価方法となる。授業については、指導と評価を一体化させて行うという点においては変わらない。
- 意見9：大学入試の年内入試が5割という話があったが、なぜ大学入試はそのように変わったのか。高校での進路指導において推薦入試を増やすような指導に変わるのか。  
⇒大学側には、複数の機会を設けて総合的に評価しようという考えと、早めに学生を確保したいという考えがあると思われる。高校では、まずは生徒自身のやりたいことや学びたいこと、入りたい大学について考えさせ、生徒の進路希望をかなえるための手段の一つとして推薦入試に向けた指導を行っているが、その受験数は増加傾向にある。

## 6 会議のまとめ

第3回の学校運営協議会では、1年間の取り組みを振り返った。総合的な探究の時間や生徒の自主的な活動、外部講師を招いての取り組みなども含めて、学校運営について肯定的な評価を得た。